

3-④ 当年度の検討範囲と結果(一部、3-⑤次年度の検討テーマを含む)

※詳細は、添付資料「改善サブWGまとめ(案)」を参照下さい。

No.	区分	問題点の詳細	起因するJLAC10構成要素					当期の検討内容		次年度の検討課題
			分析物	識別	材料	測定法	結果識別	検討結果	資料名	
1	(分析物コード)コードの重複回避	①セットコードと個別コードとの重複 1A990000001920 尿一般物質定性半定量検査 1A9910000001920 先天性代謝異常症スクリーニング 1A9920000001920 ポルフィリン症スクリーニング 1C9900000041920 髄液一般検査 1Z9900000051920 胃液・十二指腸液一般検査 1Z9920000051920 精液一般検査 2A9900000019920 末梢血液一般検査	○					【検討のポイント】 ・セットコードを追加した為に、重複となっているコードについて検討した。 【検討結果】 ①重複となっているセットコードと個別コードの対比表を作成し、使用者に周知する。 ②通常はセットコードを優先使用し、個別コードは個々の検査依頼の場合にのみ使用する。	①改善サブWGまとめ(案) P1.1. 分析物コードについて P4 6-3)新たな問題点 ②JLAC10採番ガイド(案) P1 1. 分析物コード ③資料1 分析物セットコードと個別コードの対応表	①分析物コードの適用細則に追加する。(JLAC10採番ガイドの充実も検討) ②重複コードの統一化の検討 ③個別コードでの重複コードへの対応
2	(識別コード)コードの重複回避 採番の正確性確保	①現状に即さない、また、分析物の補助的なコード利用によりコード重複・誤った採番が発生している。		○				【検討のポイント】 ・検体識別、CD分類、定量・定性、負荷試験を候補として検討した。 【検討結果】 ①検体識別、CD分類 ・使用することで重複になる可能性が高く、使用する場合は、施設内限定で外部連携には使用しない方向性にする。 ②定量・定性、負荷試験 ・現状で使用している施設が多く、代替案がないため、当期はそのままにする。	①改善サブWGまとめ(案) P1 2. 識別コードについて ②JLAC10採番ガイド(案) P1 2. 識別コード ③資料2 検体識別コード使用を避けるコード一覧	①検体識別、CD分類の使用方法について、識別コードの適用細則に追加する。(JLAC10採番ガイドの充実も検討) ②定量・定性、負荷時間の取扱い
3	(測定法コード)粒度の正当性 採番の正確性確保	①測定法の粒度の問題により、正確な採番が困難 可視吸光度法(271)、紫外吸光度法(272) ・・・複数の検査法が関連する。 ・・・JSCC標準化対応法も両方を含む ②現在の測定法分類ではデータ二次利用に有用でない				○		【検討のポイント】 ・当期は、生化学検査項目の粒度について検討した。 【検討結果】 ・主な生化学検査項目における対応表を作成した。 ・二次利用については、より詳細な情報を追加することで対応が可能であるが、コードの階層化やJLAC10の構造変更が必要であり、当期の対応は困難と判断した。また、別の視点としてデータの標準化されている項目について若干の検討を行った。	①改善サブWGまとめ(案) P2 3.測定法コードへの対応 ②JLAC10採番ガイド(案) P2 4. 測定法コード ③資料3 資料4 頻用生化学項目における測定法コードの対応表	①生化学項目以外の対応表の充実 ②使用目的を明確にした測定法粒度の方向性検討と実採番 ③JSCC標準化対応法など標準化されている項目の精査(符番も含めて検討する。)
4	(材料コード)採番の正確性確保	①材料コードの種類が多く正確な採番が困難				○		【検討のポイント】 ・材料コードを整理することで、採番を容易にする。 【検討結果】 ・使用頻度が低い、また、検体検査以外の材料コード削除の意見もあったが、JLAC10は検体検査以外の適用も今後想定されるため、改訂は見送った。 ・共用化サブWGの資料より採番誤りを多く認めた、糖負荷試験・血液ガスについて使用方法をまとめた。	①改善サブWGまとめ(案) P2 4. 材料コードについて ②JLAC10採番ガイド(案) P2 3. 材料コード ③資料5 材料コード 共用化サブWG資料より	①材料コードの適用細則に追加する。(JLAC10採番ガイドの充実も検討) ②材料コードの要素の見直し
5	(結果コード)構造の見直し	①固有コードを使用すると属性を示す共通コードが使用できない。					○	【検討結果】 ・JLAC10の構造変更が必要であり、当期の対応は困難であり見当を見送った。 ・結果共通から結果固有へ移行する項目では、符番の際に問題となる。	①改善サブWGまとめ(案) P3 6. 1)結果識別コード	①構造変更の検討 ②結果共有から結果固有へ変更する項目での符番ルールの見直しなど
6	利用目的の拡大 構造変更による効果 採番の正確性確保 データ二次利用	最小限の構造変更により、下記について有効なコードと成りえるか検討を行う。 ①検査データの二次利用に適応するコード ②地域連携における情報共有コード ③健診での使用コード	○	○	○	○	○	【検討のポイント】 ・検査データの二次利用、データ連携等に有用なJLAC10の構造を検討する。 【検討結果】 ①地域連携が必要な項目に対して検査が一意に表現できる17桁のセットを提供する。 ②分析物=分析物+新識別で9桁にする。 ③分析物(分析+識別)+新識別で9桁にする。 ⇒案②が好ましいとの議論であったが、明確な有用性を示すには至らず、結論には至らなかった。	①改善サブWGまとめ(案) P3 5. JLAC10の構造変更について ②参考資料 JLAC10構造変更について	①JLAC10の構造見直しの継続検討
7	利用目的の拡大 検査センターと病院間の連携について	①検査センターと病院間での項目の紐付を容易にするための検討。 ・各病院による測定法の違い ・各病院による検査結果構成の違い	○	○	○	○	○	【検討のポイント】 ・検査センターでは、病院と異なり1検査項目に対して複数の測定法で提供しており、現在の測定法の粒度ではコードの重複化が起こってしまう。 ・検査項目に対応する結果構成のちがいで 【検討結果】 ・時間的な問題もあり、有効な検討が行えなかった。	①改善サブWGまとめ(案) P4 2)検査センターと病院間の連携について	①検査センターと病院間のデータ連携に関する検討を行う。 ・検査項目に対応する結果構成の違いについて調査検討する。 ②コード重複化回避についての採番ルールについて検討する。